



横須賀学院同窓会 会報



正門やチャペル棟の外壁のレンガは、小口と長手が、上下左右ともに交互にあらわれる「フランス積み(フレミッシュ積み フランドル積み)」で積まれています。明治10年代に用いられた積み方でしたが、強度の問題や積み方に手間が掛かるなどの理由から、明治20年代後半からイギリス積みになっていったといわれています。

フランス積みは、デザイン性が高く、美しい外観を重視したエクステリアや装飾に適しています。猿島のトンネルや世界遺産の富岡製糸場のレンガもフランス積みです。





思いやりの心を育む

理事長・院長 川名 稔
Minoru Kawana

日頃より沼田会長はじめ、同窓会の皆さまには様々な面でご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

13年の長きに亘り、学校法人横須賀学院の理事長として学院の歴史と伝統を守り、更なる発展と児童・生徒たちの教育、人間形成のために情熱を注いで来られた保々和宏理事長が退任されました。

その後を引き継ぎ、今年度より理事長職を拝命いたしました。昨年度、二瓶浄幸前院長より院長職を任され、今年度は理事長という重責を担うこととなり、身が引き締まる思いと同時に責任の重さを痛感しております。微力ではありますが、今後の学院の更なる発展のために全力を尽くす所存です。

第二次世界大戦終結後、江戸時代末期より軍港都市として栄えてきた横須賀は大きな混乱へと陥り、日本にとっても米軍にとっても「経済の再建と民主主義化」が重要な課題となりました。当時、米海軍横須賀基地の司令官であったベントン・W・デッカー大佐はキリスト教に基づく復興を提唱し、地域周辺にキリスト教関連の教育機関、教会、福祉施設、医療機関などを相次いで設立しました。そして1950年、先人たちの熱い情熱と努力、深い信仰のもと学校法人横須賀学院が様々な困難を乗り越え創設されました。まさに、「神様のご計画」の中で産声を上げたのです。その後も幾多の苦難や試練に遭遇しましたが、多くの方々のご協力と励まし、祈りに支えられ今年創立75周年を迎えることができました。このことに「感謝」と「喜び」を持って、基本精神である「敬神・愛人」、生活目標の「誠実・努力・奉仕」、2014年に策定された「ミッションステートメント」のもと、キリスト教に基づく人格教育に邁進していきたいと決意を新たにしております。

目まぐるしく移り変わる現代社会。その変化を敏感に捉え、的確、迅速に対応する判断と勇気が必要です。急速に進むグローバル化、AIの進化、少子高齢化社会等、変革する社会に対応するために、日本の学校教育の改革が進められています。尊ぶべきたった一度の人生です。誰にでも与えられたタラント（賜物・資質・天分）を遺憾なく発揮し、与えられたミッション（使命・天命）を自覚しつつ、自分を愛するように、隣人を愛することのできる、思いやりのある心豊かな人の育成、愛に満ち溢れた学校づくりを今後も教職員一丸となって目指してまいります。今後も温かい目で見守っていただけましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。



母校の新たな未来へむけて

同窓会会長 沼田 芳明
Yoshiaki Numata

新涼の候となりましたが、日中はまだまだ暑さが続いております。同窓生の皆さまにおかれましては、お元気にてご活躍のことと存じます。

さて、去る6月29日に開催されました同窓会第16回定時総会におきまして、会長に再任されましたので、よろしく願い致します。同窓会として引き続き母校ならびに後輩児童・生徒たちへの支援を更に充実・強化したいと考えております。

私たちの母校は、去る6月9日に創立75周年を迎え、伝統を誇る学校となりました。学院の草創期は、第二次世界大戦終了後間もない大変厳しい環境の下で、敢えて勇断を奮って踏み出された一歩が、その後学院教育に携わられた多くの先生方によってその精神が受け継がれ、また、そのご尽力により施設等が充実し、教育内容も素晴らしく向上して、キリスト教精神の学校として社会的にも高い評価を得るに至りました。

今、社会は目まぐるしく変化しておりますが、わが国では特に少子高齢化が急速に進んでおり、総務省では今年15歳未満の子どもの推計人口は44年連続して減少したと発表しております。これを受けて政府は少子化を防ぐ一環として、公立高校受験の障壁を下げるため、一校のみの「単願制」見直しに向けた検討を関係省庁に示唆しました。

これは現在の「単願制」の見直しを指示するもので、受験生が順位をつけて複数の高校を志願し、志望順位を提出した上で共通試験を受検し、その後、システムが試験結果に内申点などを加味して志望順位が高い高校を割り当てる「デジタル併願制」となることを予定しています。

この制度の導入は学校ごとの教育内容ではなく、偏差値や点数で志望校を決める傾向が強まる可能性があります。入試は点数だけではなく、生徒の個性を多面的に捉えることが重要であり、点数だけで進学先が機械的に割り振られることが果たして良いことなのか大変憂慮されます。

幸い横須賀学院は、キリスト教精神の学校として社会的に高い評価を得ており、近年はグローバル教育にも力を入れておりますので、更なる飛躍が期待されております。

我々同窓生にとって母校の発展と活躍には、いつも勇気づけられるものです。同窓会と致しましても、母校の飛躍に向けて微力ではありますが、同窓生の力を結集して応援させていただきたいと考えておりますので、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願い致します。

未知の世界を生きる子どもたちへ

小学校校長 山口 旬
Jun Yamaguchi



小学校は6年間も在籍します。子どもたちにとっては人生の半分が小学校なのです。幼児期を経て、ものごころがつきはじめるのは多くは小学校中学年くらいから。それまでは日常の環境がそのまま人格形成の基礎となるものです。

いま小学校に在籍している児童は全員がコロナ以降の入学です。現6年生は緊急事態宣言の中で入学しました。当時は緊急事態宣言で入学式は中止、12月になって入学感謝礼拝をしました。4月・5月はオンライン授業で、入学したての1年生にとって学校生活は画面の向こう、友達を作る機会もままならず、今考えればとんでもない低学年時代だったのです。

オンラインが当たり前の学校生活はあの時始まりました。ZOOMがなければ授業もできない日々。あのときから日本では小学生から一人一台のタブレットを持つことが前提とされました。いまでは学校でタブレットを使用することは当たり前。ちょっと前までパソコン導入でてんやわんやしていたのに、気がつけば子どもたちがタブレットを持ち歩くかつての近未来の光景が現実となっています。

子どもたちの学習環境も激変しました。ICT（情報通信技術）という言葉も普通になりました。児童の学習で言えば調べ学習なども気が付いたら様変わりしています。かつては調べ学習と言えば図書室で本を探し、一生懸命に書き写すのが当たり前。パソコンが登場し、検索方法を学び、ネチケットを知り、検索ワードを入力するためにローマ字入力を懸命に学習するようになりました。それが今では音声入力だったり、画像さえ取り込めば勝手に検索、果てはAIが勝手に文章まで考えてくれたりすることも。家に帰れば友達同士でメールのやり取り。いまどきお互いに電話で直接会話なんてほとんどしないですむ時代。最近のトラブルの多くはSNSが原因です。

初等教育に携わる側としては、子ども時代にあまりに便利な環境に慣れてしまうと基礎能力が削がれてしまい、人として退化してしまうのではないかという懸念がぬぐえません。せめて初等教育の中では鉛筆を持ち、五感を大切に活動重視せねばと強く思います。

昭和世代からすると「この進化は決していい方向にはいかないんじゃないか」という不安がいつもあります。しかしそれが新しい子どもたちの日常であり未来なのです。私たちがついていけないだけで世界は果てしなく変化しています。これからの学校は子どもたちにわれら大人が知らない未知の世界の生き方を教えていかねばなりません。

温かな校風を守り続ける

中学校・高等学校校長 天野 海走
Kaisou Amano



同窓会の皆様には、横須賀学院の教育活動にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。母校を愛し、いつも母校のことを心に留めてくださる同窓会の皆様のご支援は、横須賀学院にとって大きな力だといつも感じております。生徒たちも、皆様の温かい応援をいただきながら、日々の学習や行事、課外活動に取り組んでおります。生徒たちが、充実した学校生活を送ることができるように、教職員一同で精一杯にサポートしていきたいと思っております。

今年の春に卒業した高校72期生は、希望進路の実現に向かって積極的なチャレンジを続けてきました。合格実績は、国公立34名、早慶上理ICU 33名、GMARCH 185名とこれまでの実績を上回りました。また、部活動も5つの部活（柔道、空手、陸上、硬式テニス、ソフトボール）が、関東大会に出場することができました。生徒たち一人ひとりが、あきらめずに真剣なチャレンジを続けてきた結果です。他にも、探究活動、ボランティア、国際交流など、あらゆる場面で活躍する生徒たちがいます。そのような生徒たちの活躍もあって、中学校、高等学校ともに、地域の方々から評価をしていただき、多くの受験生に選んでもらっています。このような活躍も同窓会のお支えがあってのことだと感じております。同窓生の皆様にとっても、ますます誇りをもっといただける学校へと発展していくように力を尽くして参ります。

今年、横須賀学院は創立75周年を迎えましたが、何よりも創立以来変わることのない横須賀学院の校風を大切に守っていきたくと思っています。初代院長の武部啓先生は、3Sの精神、Sing（賛美）、Smile（お互いの受容）、Service（神と人への奉仕）を唱えられました。中でも、Smile（笑顔）をお互いの受容と語られたことが、とても意味深いと感じています。創立以来、横須賀学院はキリスト教学校としてお互いを受け容れあう温かな空気のある学校として歩んできました。これまで学院に関わってきた方々が、大切にされてきたからだと思っております。在校生や保護者からも、温かな校風は評価いただいていると感じています。また子どもの学校見学で久しぶりに学院を訪れた卒業生も、変わらない横須賀学院の空気を感じていただいているようです。横須賀学院に関わる方々がいつ来ても、「受け容れられている」と感じていただける校風をこれからも大切にしていきたいと思っております。同窓会の皆様もぜひ母校を訪れていただき、学院の温かな空気を感じていただきたいと思います。お待ちしております。

学院文化祭～楠木祭～

9月20日(土) (荒天時は、翌21日) 9時～15時



毎年、同窓会が主催する大人気の**ビンゴゲーム**。

カード1枚500円。午前の部と午後の部に各100枚を校内で当日限定販売します。

収益金は、全額学院に寄付します。

午前の部は、11時30分、午後の部は午後1時スタート。

いずれも会場は、本館2階の第二会議室が臨時の同窓会室です。

もれなく賞品がもらえます！



同窓会役員・委員長改選

2025年6月29日(日)14時から小チャペルにおいて同窓会総会が開催されました。2024年度の事業報告・決算報告ならびに新年度事業計画案・収支予算案が報告・付議され、いずれも全会一致で了解・承認されました。また、3年の任期満了にともなう役員・委員長改選が行われました。結果は次の通りです。会長 沼田芳明(再任)、副会長 伊藤洋明(再任)、同 森隆雄(再任)、同 府馬功治(新任)、事務局長・企画・記録委員長 藤田祐樹(再任)、会計 桑澤尚友(新任)、同 池田大治郎(再任)、会計監査 野中嘉明(再任)、同 北見正之(再任)、広報委員長 大石朗(新任)、IT委員長 府馬功治(再任)、サークル委員長 石渡千代(再任)、退任 桐ヶ谷良之(副会長・広報委員長)、大石朗(会計) 敬称略



第63回公演 横須賀学院 クリスマス音楽会

Messiah 12月16日(火)14:30開演
会場：横須賀市文化会館大ホール

聖歌隊OB合唱団「bless」

学院創立40周年から聖歌隊OBが「bless」の名称で活動しています。「メサイア」を歌いたいとPTA合唱団や外部の人も加わり、現在約30人の団員が定期的な練習を重ね、スキルアップを図っています。

今年度のメサイア練習日程

10月 4日(土) 10月18日(土) 11月 8日(土)
11月22日(土) 12月13日(土)

すべて16:00～18:00 横須賀学院大チャペル

◎詳細は、学院ホームページでお知らせします。

聖歌隊OB合唱団「bless」連絡先

横須賀学院高等学校 聖歌隊顧問 齊藤 裕・
齊藤 美咲・吉住 高志・安達正希
横須賀市稲岡町82番地 ☎046-822-3218(代表)



その枝会

キリスト教青年会のOBを中心に現役の青年会を支援し、ともに活動することを目的とする「その枝会」。

「その枝会」という名称は、聖書のことば「わたし(イエス・キリスト)はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」(ヨハネによる福音書15章5節)からとらせていただきました。

会につながる一人ひとりが、主イエスにしっかりとつながり、豊かな人生の実を結んでいくように、そんな祈りが込められています。



文化祭で「その枝会」は、今年も昨年と同様のブースを開店しますので、お楽しみに。皆さまのご来店をお待ちしております。

2025年春 主な大学合格実績

国公立大学に34名が合格 過去最多を更新！

一橋大学1 名古屋大学1 筑波大学1 北海道大学1 横浜国立大学3 東京海洋大学2 東京芸術大学1
帯広畜産大学1 東京都立大学3 横浜市立大学6 神奈川県立保健福祉大学2 川崎市立看護大学1 他

早慶上理ICUに33名が合格 過去最多を更新！ 東京理科大は14名と大躍進！

早稲田大学5 慶応義塾大学7 上智大学6 東京理科大学14 国際基督教大学1

GMARCHIに185名が合格 過去最多を更新！

学習院大学10 明治大学34 青山学院大学38 立教大学31 中央大学27 法政大学45

その他多数合格

明治学院大学46 國學院大学26 成蹊大学10 成城大学8 日本大学64 東洋大学40
芝浦工業大学31 東京電機大学18 北里大学16(医1) 東海大学54(医1) 昭和薬科大学6

同窓会ホームページを ご覧ください

「横須賀学院同窓会」で検索できます。

同窓会IT委員会では、同窓会の行事や懐かしい学院を写真で紹介しています。ぜひご覧ください。

タイムリーに同窓生にお役に立てただけのように「同期会やクラス会」「サークルへの参加募集」「同窓生の活躍情報」などさまざまな情報をお寄せください。IT委員会活動に少しでもお手伝い頂ける方も下記へご連絡ください。



同窓会事務局

☎ 046-822-3218

FAX 046-826-1443

同窓会終身会費納入のお願い

— 母校の発展と相互の絆のために —

すでに多くの皆様のご協力を頂いております。下記の皆様で未納の方はよろしくお願ひいたします。

- ◎1983年度（'84年3月）卒業生及びそれ以前に卒業された方。高校1期～31期
中学校1期～32期 小学校1期～34期
- ◎金額 終身会費として、1人1万円（2千円ずつ5回の分割支払い可）
- ◎詳しくは事務局までお問い合わせください。

同期会開催の幹事さんへ

同窓会では、各期同窓会の開催通知にかかる往復はがき料金の援助を行っています。詳しくは、学院事務局までお問い合わせください。

住所を変更された方へ

同窓会会報などを郵送するため、住所を変更された方は学院事務局まで電話かファックスでお知らせください。

訃報

永眠者のご報告
神のみもとでのご平安をお祈りいたします。（敬称略）

小沢 一彦（中1期）
板垣 一己（高23期）
古閑 千恵（小10、中11、高13期）
小川 雄二（小5、中6、高8期）
千葉 啓子（高8期）
高田 健二（小4、中5期）
藤崎 洋子（中5、高7期）
中山 真理（高12期）
神谷 運代（小4、中5、高7期）
森本 幹雄（元教員）
中島 郁雄（小4、中5期）
花崎 勝彦（小4、中5、高7期）
穂田 文雄（高31期）
岩野 寛（小3、中4、高6期）
小川 芳代（中5、高7期）
桃原 瑛子（高7期）

ご連絡をいただいた方を掲載いたしております。

後援会 小沢前会長を偲んで

小沢一彦さんは時代の波を乗り越えて人生を歩んできました。幾多の苦難を乗り越えて生き抜いてきた87年。小沢一彦さんの尊さは時を越えて永遠に生き続けます。忘れられることなく。



2025年2月13日 2時13分逝去 享年87歳

編集後記

ミッションスクールを卒業したというのが、私の自慢の一つでした。

しかし、恥ずかしいことに、今まで「旧訳聖書」「新訳聖書」と思っていました。正しくは「旧約聖書」「新約聖書」なんですね…。

桐ヶ谷良之第4代広報委員長からバトンを託され、初めての会報編集をしながら知った次第です。

終礼では、早く部活に行きたい、帰りたい一心で賛美歌541番、542番の「頌栄」を定番としていたので、胸を張ってミッション・スクール卒業を自慢できる立派ではありませんから、当然かもしれません。

お忙しい中、原稿を寄せいただきました先生方・会員皆様に感謝申し上げます。Ⓣ

発行者 横須賀学院同窓会
会長 沼田 芳明
住所 〒238-8511
横須賀市稲岡町82（横須賀学院内）
電話 046（822）3218（代表）
FAX 046（826）1443
発行日 2025年（令和7年）9月1日
編集者 広報委員長 大石 朗
印刷 文明堂印刷(株) 横須賀市東浦賀1-3-12